

近代美術・現代美術史について（西洋）

年 組 番 名 前

学習の目当て 近・現代美術史について学び美術や、美術文化に対する関心を高めることができる。

近代美術

「ルネサンス」が15世紀～16世紀まで続き、その流れを受け継ぐ「バロック」と呼ばれる時代が17世紀まで続きました。18世紀になるとフランス革命やイギリスの産業革命により市民が力を持ち、それまで上流階級の娯楽であった美術がより多くの人々に楽しまれるようになりました。その結果芸術家達は個性を主張し、多様な考え方の美術が生まれ、その頃以降の美術が**近代美術**と分類されます。

多様な考え方の美術

上記のように近代美術以降多様な考え方の美術が生まれました。ここではそのいくつかを説明します。

18世紀

ロココ主義

ロココとはロカイユ（貝殻装飾）が語源で全体に丸みのある形を総称している。絵画の主題も堅苦しさが消え曲線を利用した優雅で甘美な構図が多用されている。



ジャン・オノレ・フラゴナール
「ぶらんこ」

新古典主義

バロック様式やロココ主義美術が生まれる中でギリシャ・ローマ時代の美術が最も素晴らしいという考え方。



アンゲル「グランド・オタリスク」

19世紀

ロマン主義

ロマン主義は、過去や自然への賛美、また個人の感情や主観に重点を置いて表現しているという特徴がある。



ウジェーヌ・ドラクロワ
「民衆を導く自由の女神」

写実主義

ロマン主義等それまで生まれた主義、思想への反動として「現実をあるがままに再現しよう」という考え方。



ミレー「落穂拾い」

印象派

印象派は19世紀後半頃にパリで起こった芸術運動であり、印象派の画家は「光」を描きだすことを重視しました。そのため筆の跡を残さず細部の描写にこだわるそれまでの絵画と比較して、印象派は素早く筆を動かし、移りゆく自然光を即座に捉えるために荒々しい筆跡が残ることがあります。



ルノワール「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」



エドガー・ドガ「舞台のバレエ稽古」



クロード・モネ
「日傘の女性、モネ夫人と息子」

ポスト印象派（後期印象派）

印象派がパリで生まれたのに対し 1880 年代からフランスを中心に新しい様式で活動を始めた画家を「ポスト印象派」と呼びます。様式的な共通点はなく、それぞれが独自の作風を持ちます。セザンヌ、ゴーギャン、ゴッホなどがポスト印象派の代表的な画家です。



ゴッホ「夜のカフェテラス」



セザンヌ「果物籠のある静物」



ポール・ゴーギャン「タチ子の女」

現代美術

20 世紀以降の美術を現代美術と分類される。（第 2 次世界大戦以降の美術を現代美術と分類する場合もある）現代美術では人や物、風景など具象的な作品から、夢や幻想など抽象的な作品が多くなり、それまで絵画や彫刻を作る時の決まり事や様式は排除されていった。（ピカソのキュビズムやシュルレアなどもこれに含む）作品の素材や形式も多様化し主義、思想や芸術運動も紹介しきれないほどにある。今回はその中から有名なものをいくつかピックアップして紹介する。

フォーヴィスム（野獣派）

フォーヴィスムは、人間の内的感情や感覚を表現するのに色彩は重要なものとし、色彩自体が作り出す世界を研究しようという芸術運動である。単純な形と原色に近い色を激しい筆使いで表現するという特徴がある。



「緑のすじのあるマティス夫人の肖像」
アンリ・マティス

キュビズム



パブロ・ピカソ「泣く女」

シュルレアリスム



サルバドール・ダリ「水面に像を映す白鳥」

抽象表現主義

1940 年～ 50 年代にかけてアメリカでおこった美術運動である。フォーヴィスムの流れを組むこともあり、内的感情を前面に押し出した抽象的な様式のため "抽象表現主義" と呼ばれる。



ジャクソン・ポロック
「インディアンレッドの地の壁画」

ポップアート



アンディ・ウォーホル「マリリン Monroe」

20 世紀

第二次世界大戦

